

第7話

— 南須釜 —

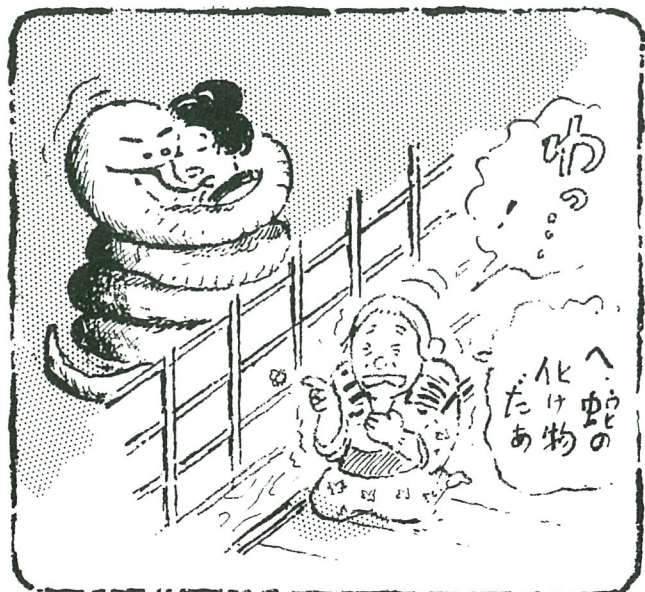
昔「パチギ」という所に
美しいはた織り女が
住んでいた…



たまたがもの
民話と伝説

蛇に恋された女

へび... こい おんな



だがこの女には若い侍が
相手だと思っていたのである
―が侍は蛇の化身であった



そのようなら
せったい
信じてませぬ

ウソだと思ふなら
今度会ったとき
はかまのすそに
長い糸をつけた
針をさしてごらん

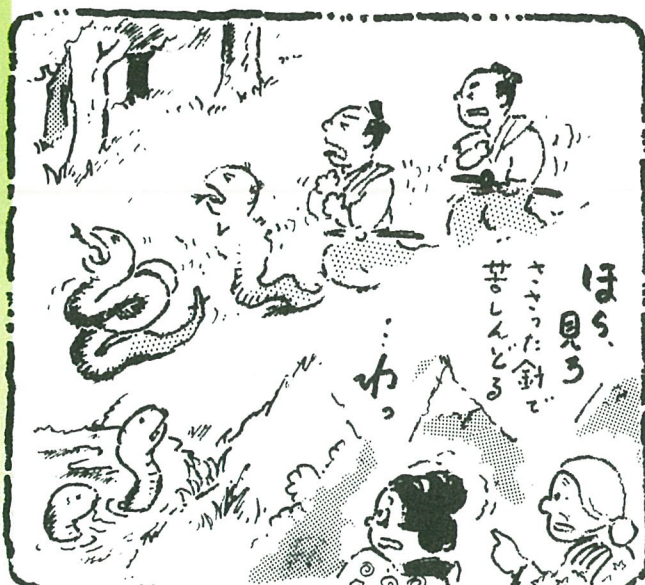


―次の日、言われたとおり
長い糸を通した針を
侍のほかまのすそに...



うゝあ
あとき
つける
んじや

ほら
見ろ
ささった針で
苦しんどう



どう
しょう
子供が
てきまの

―そして節句の晩になり
「しょうぶ」と「よもぎ」を
入れて風呂に入った...

ぞろぞろ
たいへんだ
それなら節句の晩に
「しょうぶ」と
「よもぎ」を入れて
風呂に入れ



なんと
たらいはいの
蛇の子を
生んじゃった
ぞえ

―こうしてこの女はそれ以上の
大難はまぬがれたが、今でも
節句の晩によもぎとしょうぶの湯に
入るならわしとよってゐる。